

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
第7回ファカルティ・デベロップメント報告書

平成25年12月

社会健康医学系専攻教務委員会

はじめに

京都大学医学研究科社会健康医学系専攻は、設置以来、大学院生への教育を重視し、カリキュラムの検討、評価方法の検討などを積極的に検討してきた。

その一環として、当専攻は教育のあり方を追及するために、平成 20 年度から、ファカルティデベロプメント (FD) 活動を開催してきた。平成 20 年 10 月に専門職大学院の認証評価を受けた際に指摘された点などをもとに、その結果、平成 21 年度より、特別コースも含めて、全学生にコア 5 領域の履修を必須とした平成 21 年 11 月に開催された第 3 回 FD から教務委員会による京大 SPH 独自の授業評価システム開発プロジェクトが立ち上がり、平成 22 年度の第 4 回 FD では、同年度から始動した新授業評価システムの評価が行われ、学生の参加状況、学生側からの新システムに対する意見が発表され、評価の高かった授業の責任者による授業内容の紹介、ベストティーチャーズ賞の将来的創設を念頭に、外国の事例報告などが行われた。平成 23 年度は、「教育システムの強化について」と題し、さらなる教育の充実を図ることを目的に実施された。特記すべき取り組みとして、米国のメンタリングプログラムのリーダーとして著名な、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の Mitchell D. Feldman 教授を招き、米国のメンタリングの内容と動向を学ぶ機会を設けたことであり、その他にも、履修モデルの設定、授業内容のレベル表示、成績評価の厳密性・公正性の確保、レポート提出・試験の過密化の解消策、課題研究の中間指導のあり方などが話し合われた。これらの多くは、その後実質化が図られ、教育活動の充実に貢献している。

平成 25 年度は、「講義への ICT の利用」をテーマに、京都大学高等教育研究開発推進センターの飯吉透教授を招き、ICT を用いた教育の世界的潮流や様々な新しい教育形態について学習し、その可能性について議論を行なった。

今年度は、古川教務委員長企画で、情報環境機構 IT 企画室の梶田将司教授に、PandA という京都大学の学習支援システムを中心に、インターネットを利用した学習支援システムの Sakai のデモをしていただいた。また、ベストティーチャーズ賞を受賞した教授の講義を行った。SPH の教育のさらなる質改善のために、今後も FD を大いに活用していきたいものである。

平成 26 年 1 月

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻
専攻長 福原 俊一

目次

- 1 はじめに 専攻長 福原俊一
- 2 第7回ファカルティ・デベロップメントプログラム
- 3 ベストティーチャー賞受賞講演
3.1 佐藤俊哉教授講演（資料）
- 4 梶田将司教授講演（資料）
- 5 PandA を実際に利用してみて（古川壽亮）
- 6 おわりに 教務委員長 古川壽亮

第7回ファカルティ・デベロップメントプログラム

テーマ： 京都大学における学習支援システム

場所： セミナー室 A

日時： 11月30日金曜日 9時30分～12時

プログラム：

9:30 ベストティーチャー賞受賞講演 佐藤俊哉先生 「私の講義の工夫」

10:00 梶田将司教授（京都大学情報環境機構）「PandA の利用（KULASIS との対比も含めて）」

11:00 古川壽亮教授「PandA を利用してみて」

2012 年度ベストティーチャー賞受賞講演

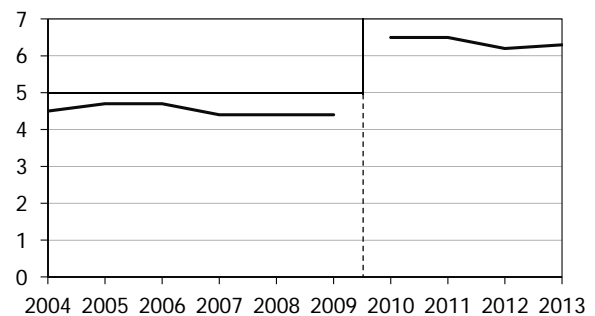
佐藤俊哉教授講演

講義の仕方なんて 教わってないのに...

佐藤俊哉 京都大学医療統計
社会健康医学系専攻FD
2013年11月29日



医療統計学 授業評価(全体)



2

コア医療統計学の特殊性

- みんな頭から「わからない」と思っている
 - ▶ほかの講義よりそもそもハードルが低い
 - ▶コアなのでそのギャップを埋めるのが目的
- 講義だけではありません
 - ▶実習で実際に手を動かして理解してもらう
 - ▶そのため実習にも力を入れています

3

以前から自らに課していること

- 学生時代につまらなかった講義はしない
- 大きな声で話す
- スライドの字は配布資料を1ページ6枚で印刷しても読めるように
- ポインターは使わない
- 寝た子を起こす
- 学生の名前を憶える(できるだけ早く)
- 学生に質問しながら話す

4

医療統計学で心がけていること 1

- 知識を与えない
 - ▶できるだけ考えさせる
- 自分が参加した研究を例に話す
 - ▶単なる研究紹介に終わらない
 - ▶考えた点、工夫した点、苦労した点、...
- ピロリ菌のケース・コントロール研究
- 骨粗しょう症治療薬市販後臨床試験
- 肝がんの臨床試験

5

医療統計学で心がけていること 2

- 興味をもたせる
 - ▶推理小説のように、「なぜ?」、を続ける
- アニメーションを効果的に使う
- ハンドアウトは講義後に配布する
 - ▶講義前にほしいという要望が毎年です
- 最初の10分くらいで前回の復習をする
 - ▶最初の授業評価でそうしてほしいと要望
- 図表など手元にないと困るものは事前に配布

6

医療統計学で心がけていること 3

- 30分を区切りにテーマをかえる
 - ▶ 興味をもちそうな余談もはさむ
- 準備に十分な時間をかける
- 講義資料は少しでも毎年アップデートする
- How to ではなく医療統計の考え方の理解
 - ▶ 問題解決能力をつけさせたいのですが...
 - ▶ 実習ではもっと徹底して考えさせています

7

医療統計学で心がけていること 4

- 数式、専門用語は極力つかわない
- 日常用語でわかりやすく説明する
- 最終評価はレポートで
 - ▶ 途中ミニテストを実施
- 例年6つのレポートテーマを提示
 - ▶ 毎年探すのに苦労しています

8

5. 自らの考案したダイエット法

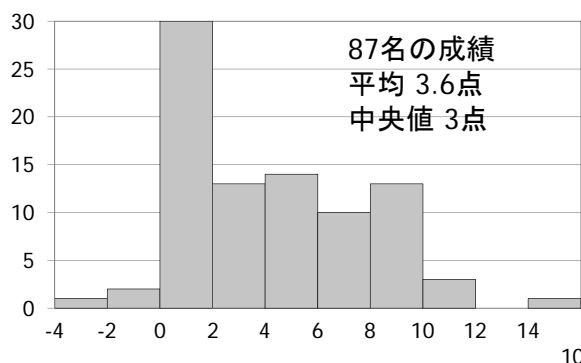
- ある研究者が、自らの考案したダイエット法を実践してみた。結果、半年間で2.5kg体重が減った。
- 1人の「実践した→効いた」という事実なので、症例報告。

そもそもこれは研究ですか？

- こんな報告を公表できる場所はありますか？

9

ミニテスト得点(30点満点)



10

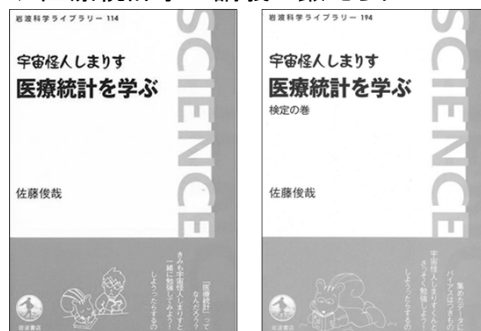
2013年レポートテーマ

- 観察研究における統計解析の役割
- またまた非劣性試験
- 電医療データベースを用いた医薬品安全性研究
- 2つの評価項目の有効性をしめす臨床試験
- 安全性のメタアナリシス
- Pragmatic Trials とはなにか

11

コア医療統計学の成果

- コア医療統計学の講義で鍛えられ



12

1. 観察研究における統計解析の役割

講義でも強調したように、ほとんどの統計手法はランダム化やランダムサンプリングが行われていない場合には役に立ちません。しかし、わたしたちが行う研究のほとんどはランダム化もランダムサンプリングも行われていないのが実情です。こういった研究で統計手法を用いて解析することにどんな意味があるのか、以下の文献を読んで、どのような条件があれば解析の妥当性が満たされるのか、解析の妥当性が満たされない場合の統計解析の結果をどう解釈すればいいのかをまとめ、これからあなたが行おうとしている研究で統計解析を行うとき、行った結果の解釈に関する注意点を述べてください。

Greenland S. Randomization, statistics, and causal inference. *Epidemiology* 1990; 1: 421-429.

Greenland S, Pool C. Problems in common interpretations of statistics in scientific articles, expert reports, and testimony. *Jurimetrics* 2011; 51: 113-129.

Savitz DA. Reconciling theory and practice: What is to be done with P values? *Epidemiology* 2013; 24: 212-214.

2. またまた非劣性試験

非劣性試験については 2010 年の課題にとり上げたばかりですが、2012 年に CONSORT 2010 声明に対応した非劣性試験の報告のための最新版ガイドラインが発表されました。以下の文献を読んで、過去の非劣性試験に関する CONSORT 声明からの拡張点、および優越性試験に関する CONSORT 声明との違いを整理して、あなたの意見や今後の拡張の方向性を述べてください。

The CONSORT statement. <http://www.consort-statement.org/>

Piaggio G, Elbourne DR, Pocock SJ, Evans SJ, Altman DG; CONSORT Group. Reporting of noninferiority and equivalence randomized trials: extension of the CONSORT 2010 statement. *JAMA* 2012; 308: 2594-604.

Piaggio G, Elbourne DR, Altman DG, Pocock SJ, Evans SJ; CONSORT Group. Reporting of noninferiority and equivalence randomized trials: an extension of the CONSORT statement. *JAMA* . 2006; 295: 1152-1160.

Mulla SM, Scott IA, Jackevicius CA, You JJ, Guyatt GH. How to use a noninferiority trial: users' guides to the medical literature. *JAMA*. 2012; 308: 2605-2611.

3. 電子医療データベースを用いた医薬品安全性研究

さまざまな医療情報が電子化され、診療報酬請求、診療記録、処方記録などの情報が蓄

積されています。これらの情報を有効に利用して、医薬品の安全性に関する情報や、さまざまな臨床研究を行うことが世界的に進められています。そのひとつが、米国 Food and Drug Administration (FDA) の Sentinel Initiative です。FDA はパイロット研究として Mini-Sentinel を実施していますが、そこでは Common Data Model と呼ばれる新しいデータベース統合モデルが用いられています。以下の文献を読んで、Common Data Model とはどんなものか、その利点と欠点をまとめ、とくに統計的な問題点についてあなたの意見を述べてください。

Curtis LH, Weiner MG, Boudreau DM, Cooper WO, Daniel GW, Nair VP, Raebel MA, Beaulieu NU, Rosofsky R, Woodworth TS, Brown JS. Design considerations, architecture, and use of the Mini-Sentinel distributed data system. *Pharmacoepidemiology and Drug Safety* 2012; 21(S1): 23-31.

Platt R, Carnahan RM, Brown JS, Chrischilles E, Curtis LH, Hennessy S, Nelson JC, Racoosin JA, Robb M, Schneeweiss S, Toh S, Weiner MG. The US Food and Drug Administration's Mini-Sentinel program: Status and direction. *Pharmacoepidemiology and Drug Safety* 2012; 21(S1): 1-8.

Psaty BM, Larson EB. Investments in infrastructure for diverse research resources and the health of public. *Journal of American Medical Association* 2013; 309: 1895-1896.

Toh S, Platt R. Is size the next big thing in Epidemiology? *Epidemiology* 2013; 24: 349-351.

4. 2つの評価項目の有効性をしめす臨床試験

医療統計学の第10回の講義で、多重性の調整が必要ない例として、ヨクナールの「熱を下げる効果」と「のどの痛みに対する効果」の両方が認められたらかぜ薬として売り出そう、という状況を紹介しました。このような状況の典型例がアルツハイマー型認知症で、認知機能と全般症状の2つの評価項目について、新治療の有効性を示すことが一般的に必要なとされています。ところが、いくつかの最近の日本の臨床試験では、全般症状についての有効性を示すことができず、この分野における医薬品開発の難しさが顕在化しました。これに関連して、米国の Food and Drug Administration (FDA) は初期のアルツハイマー型認知症の治療薬の開発に関するガイダンス(案)を発表しました。このガイダンスおよび関連する文献を読んで、アルツハイマー型認知症の臨床試験で2つの評価項目の有効性を示すことについて、試験の計画や解析でどのようなことに注意したらよいか、あなたの考えをまとめてください。

Food and Drug Administration. Guidance for Industry Alzheimer's Disease: Developing Drugs for the Treatment of Early Stage Disease. Draft Guidance. Center for Drug Evaluation and Research, Food and Drug Administration, Rockville, MD, 2013.

Nakamura Y, Imai Y, Shigeta M, Graf A, Shirahase T, Kim H, Fujii A, Mori J, Homma A. A

24-week, randomized, double-blind, placebo-controlled study to evaluate the efficacy, safety and tolerability of the rivastigmine patch in Japanese patients with Alzheimer's disease. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra* 2011; 1: 163-179.

Xiong C, Yu K, Gao F, Yan Y, Zhang Z. Power and sample size for clinical trials when efficacy is required in multiple endpoints: application to an Alzheimer's treatment trial. *Clinical Trials* 2005; 2: 387-393.

参考

中村祐, 本間昭, 北村伸, 吉村功. 新規 NMDA 受容体拮抗剤であるメマンチン塩酸塩の中等度から高度アルツハイマー型認知症に対する第 III 相試験. *老年精神医学雑誌* 2011; 22: 464-473.

本間昭, 中村祐, 斎藤隆行, 敷波幸治, 石田亮. ガランタミン臭化水素酸塩のアルツハイマー型認知症に対するプラセボ対照二重盲検比較試験. *老年精神医学雑誌* 2011; 22: 333-344.

5. 安全性のメタアナリシス

医薬品が市販されてから安全性に大きな問題があるとわかるのは、通常発生頻度の低い場合であり、まさにメタアナリシスが威力を発揮する状況となります。このような安全性に関する重要な問題を早期に発見するために、市販前・市販後の臨床試験からえられた安全性情報のメタアナリシスが実施されていますが、いくつかの問題点があることが指摘されています。以下の文献を読んで、臨床試験の安全性情報のメタアナリシスは有効性のメタアナリシスとなることがなるのか、どのような問題点があるのかをまとめ、あなたが実際に臨床試験の安全性情報のメタアナリシスを行うことを想定して、どのように実施すればいいのか、また結果の解釈で注意が必要な点などをまとめてください。

Berlin JA, Crowe BJ, Whalen E, Xia HA, Koro CE, Kuebler J. Meta-analysis of clinical trial safety data in a drug development program: Answers to frequently asked questions. *Clinical Trials* 2013; 10: 20-31.

Lane PW. Meta-analysis of incidence of rare events. *Statistical Methods in Medical Research* 2013; 22: 117-132.

Nissen SE, Wolski K. Effect of rosiglitazone on the risk of myocardial infarction and death from cardiovascular causes. *New England Journal of Medicine* 2007; 356: 2457-2471.

6. Pragmatic Trials とはなにか？

Pragmatic Trial という概念は古くからありましたが、Comparative Effectiveness Research の推進にともなって、再び脚光を浴びています。(Comparative Effectiveness Research については、2011 年のレポートテーマでとり上げていますので、興味のある人は 2011 年のレポート

集を参考にしてください。)以下の文献を読んで、Pragmatic Trial とはなにか、通常のランダム化臨床試験と対比させて、その役割と意義、利点と欠点などをまとめ、Pragmatic Trial はどんなときに役に立つのか、あなたの意見を述べてください。

Chalkidou K, Tunis S, Whicher D, Fowler R, Zwarenstein M. The role of pragmatic randomized controlled trials (pRCTs) in comparative effectiveness research. *Clinical Trials* 2012; 9: 436-446.

Porzsolt F, Eisemann M, Habs M, Wyer P. Form follows function: pragmatic controlled trials (PCTs) have to answer different questions and require different designs than randomized controlled trials (RCTs). *Journal of Public Health* 2013; 21: 307-313.

Ware J, Hamel MB. Pragmatic trials - Guide to better patient care? *New England Journal of Medicine* 2011; 364: 1685-1687.

梶田将司教授講演

2013年度 社会健康医学系専攻FD講習会 「PandA ってなんだ?!」 ～学習支援システムによる授業支援～

京都大学
情報環境機構IT企画室
学術情報メディアセンター教育学習支援環境部門
教授 梶田将司

講師(自己紹介)

梶田 将司 (かじたしょうじ)

京都大学 教授
情報環境機構IT企画室
学術情報メディアセンター教育学習支援環境部門兼務



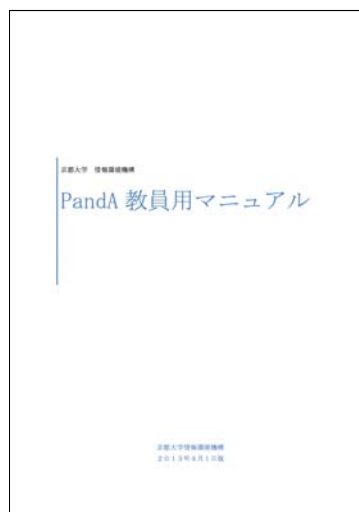
略歴

昭和42年4月	岡山県岡山市生まれ(現在46歳)
昭和55年3月	岡山市立津島小学校卒業
昭和58年3月	高松市立紫雲中学校卒業
昭和61年3月	香川県立高松高等学校卒業
平成2年3月	名古屋大学工学部情報工学科卒業
平成7年3月	名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程満了
平成7年4月	名古屋大学工学部助手
平成10年3月	博士(工学) "A Study on Noise Robust Acoustic Analysis for Automatic Speech Recognition"
平成10年4月	名古屋大学情報メディア教育センター助手
平成14年4月	名古屋大学情報連携基盤センター助教授
平成14年11月	名古屋大学学術コンソーシアム推進室室員併任
平成14年7月	文部科学省メディア教育開発センター客員助教授併任
平成21年4月	名古屋大学情報連携統括本部情報戦略室准教授
平成23年10月	京都大学情報環境機構IT企画室教授, 現在に至る

アジェンダ

1. 学習支援システムによる授業支援の現状(30分)
2. PandA 基礎編(10分)
 - ログイン, ログアウト
 - マイワークスペース
 - コースサイトの作成
 - コースサイトへの参加者登録(TAや受講生)
3. ケーススタディ1: 梶田 (20分)
 - リソースツールによる授業資料公開
 - 課題ツールによる課題の提出, 回収, 採点, 返却
 - お知らせツールによる学生への連絡
 - オンラインテストの作成, 出題, 採点
4. ケーススタディ2: 古川先生 (15分)
5. 議論

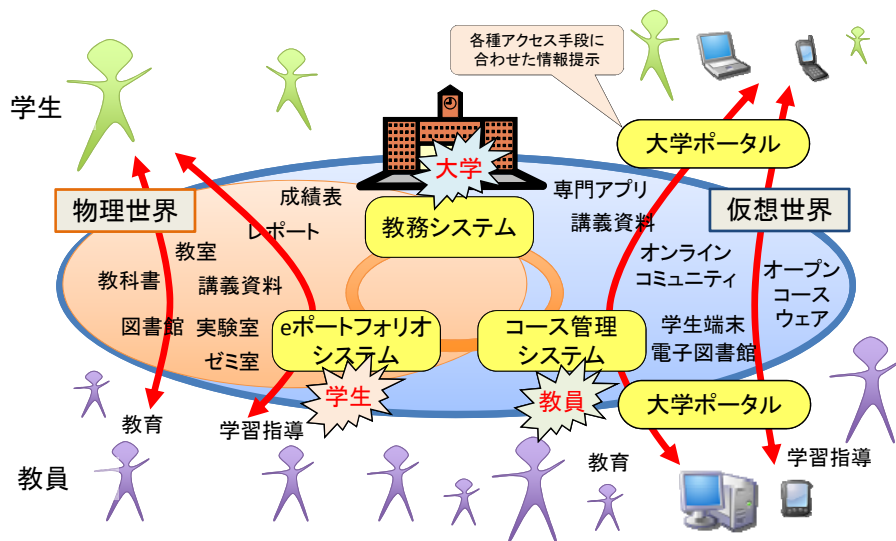
PandA 教員用マニュアル



http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ecs/PDF/panda_tebiki_f.pdf

1. 学習支援システムによる 授業支援の現状

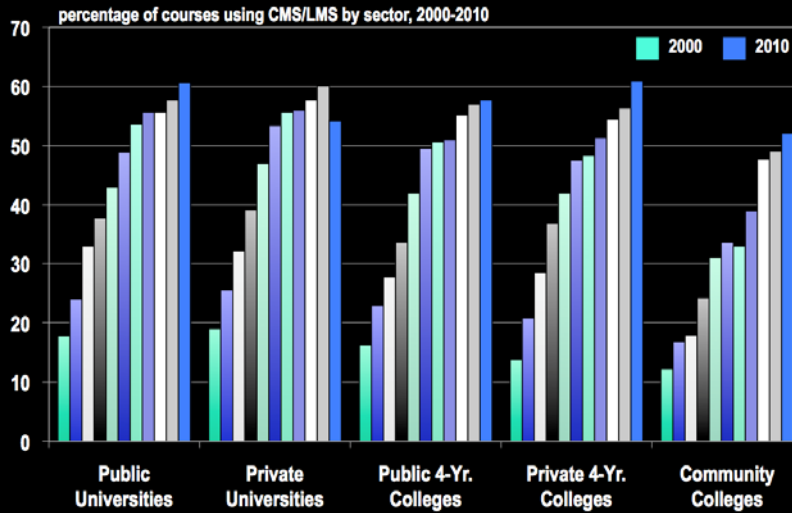
一般的な教育学習情報環境



Rising Use of IT in Instruction

米国におけるCMS利用状況

Learning Management Tools (CMS/LMS)

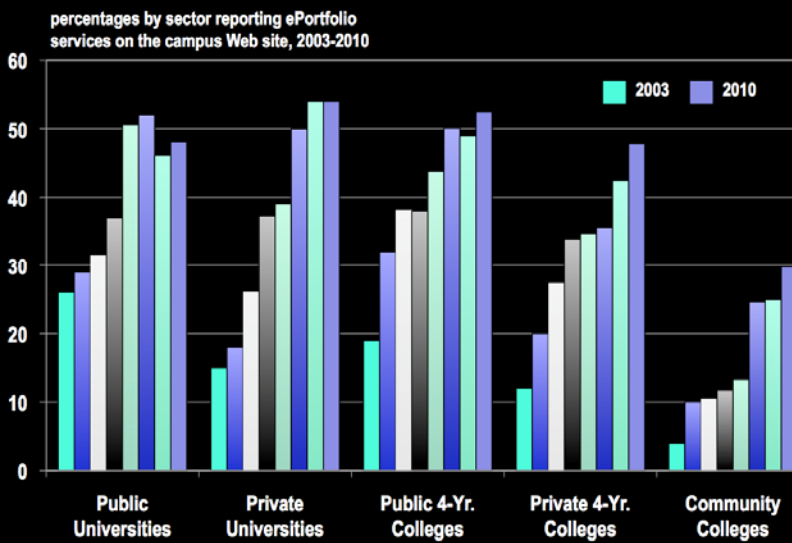


K. C. Green, "Campus Computing 2010", EDUCAUSE2010



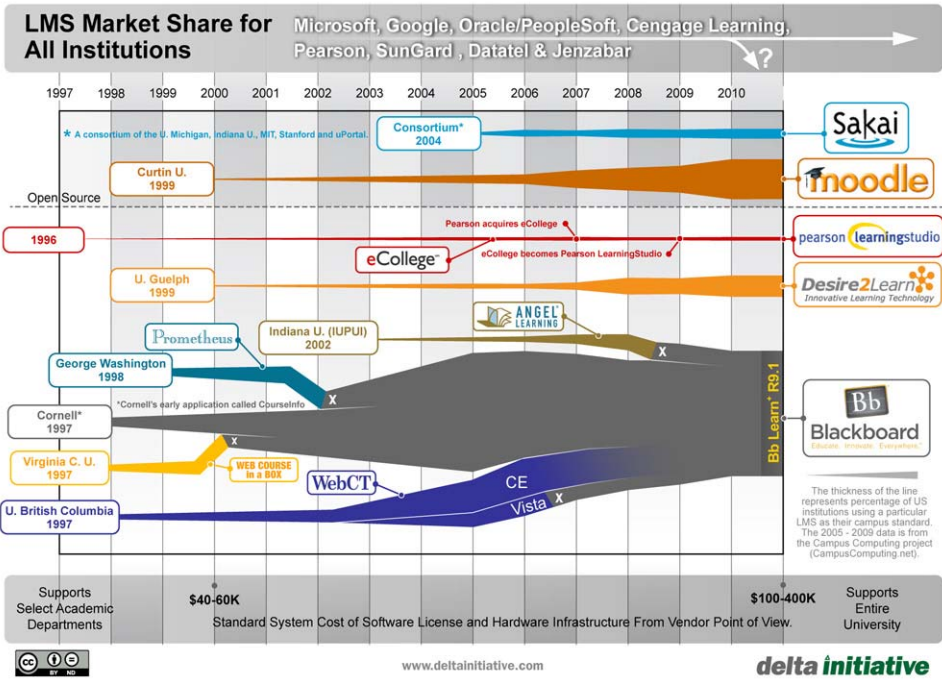
ePortfolios 米国におけるeポートフォリオ利用状況

ePortfolios

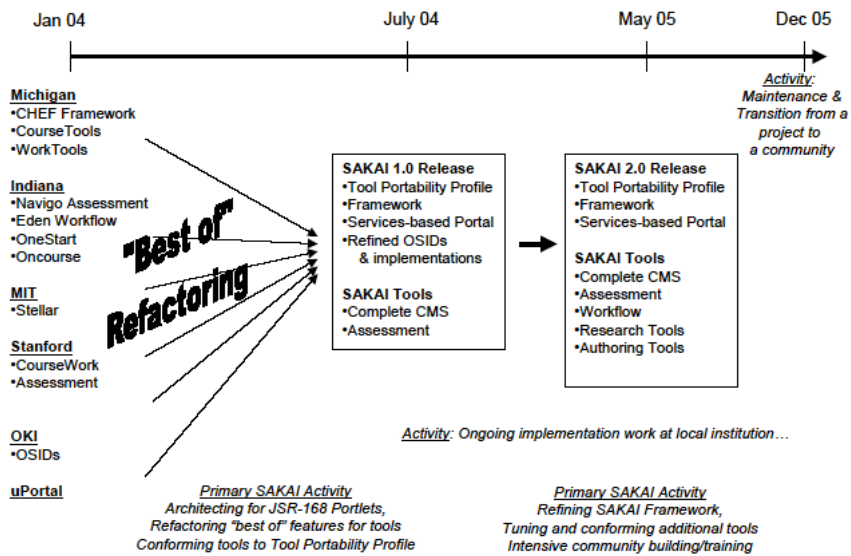


K. C. Green, "Campus Computing 2010", EDUCAUSE2010





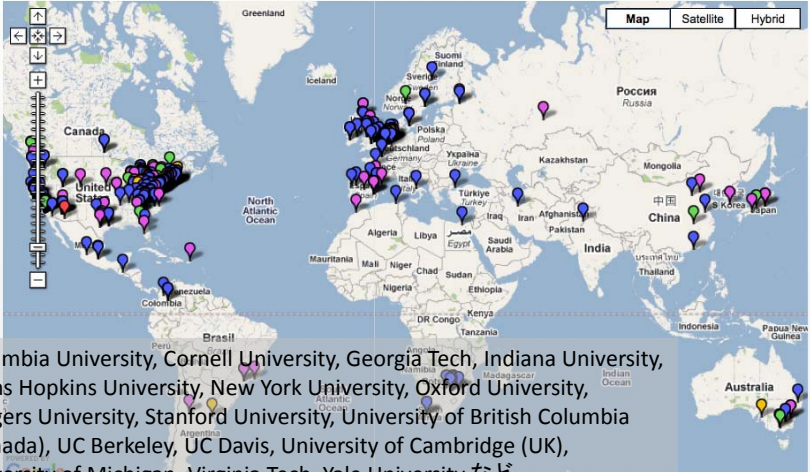
Sakai Core Project



(Sakai Project の資料より抜粋)

Sakai コミュニティ

Show All | Production | Pilots | Partners: Academic | Partners: Commercial Affiliates | Community Servers



Columbia University, Cornell University, Georgia Tech, Indiana University, Johns Hopkins University, New York University, Oxford University, Rutgers University, Stanford University, University of British Columbia (Canada), UC Berkeley, UC Davis, University of Cambridge (UK), University of Michigan, Virginia Tech, Yale University など
研究大学を中心に世界中の 200 以上の大学で運用

11

PandA: People and Academe

Sakai ベースの京都大学 Course MS

- 学生から公募
 - 4 件を審査
 - 教員・学生・システムの三位一体
 - グラフィックデザイナーの奥村客員教授(メディアセンター)による指導



Sakai Pilot: カジゼミ ホーム

PandA

マイワークスペース | クラウドプログラミング入門 | カジゼミ | 他のサイト

Home | カジゼミ: サイト情報表示 | カジゼミ: カレンダー

スケジュール | オプション | カジゼミ: カレンダー

リス | オプション

メールアーカイブ | カジゼミ: カレンダー

リイト検索 | カジゼミ: カレンダー

ダッシュボード | カジゼミ: カレンダー

フォーラム | カジゼミ: カレンダー

3月, 2013

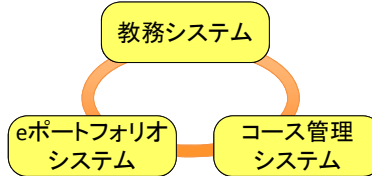
日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23

京都大学の現状

※1 現行教務情報システム導入時の歴史的経緯により、共通教育用に開発・運用されていた KULASIS を全学展開

※2 KULASIS はユーザインタフェース、教務情報システムは業務処理、データ連携(手動)は密に行われており問題なし

- “KULASIS” (学務部)
- “教務情報システム” (情報部情報推進課)



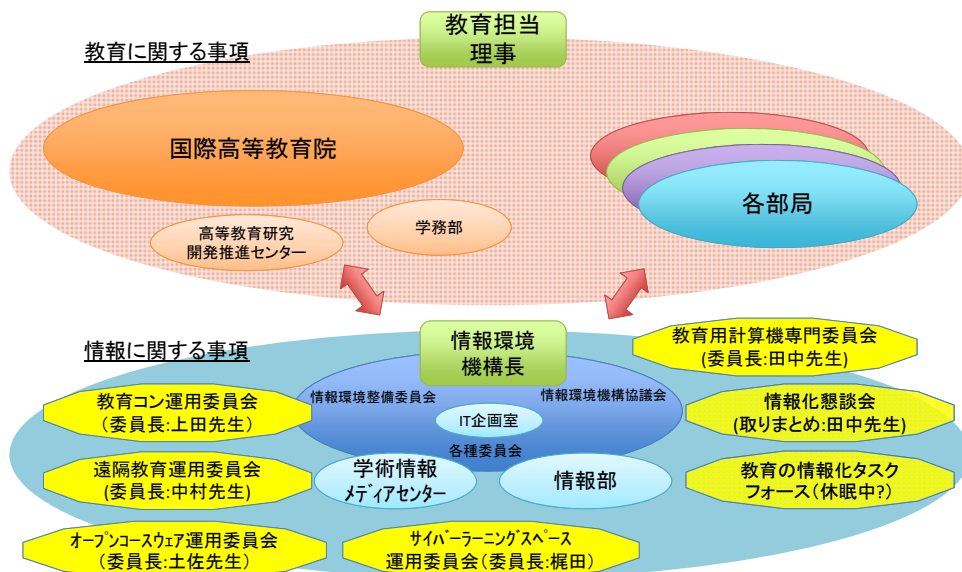
- なし
- “学習支援システム” (情報環境機構)

※5 思修館において計画あり

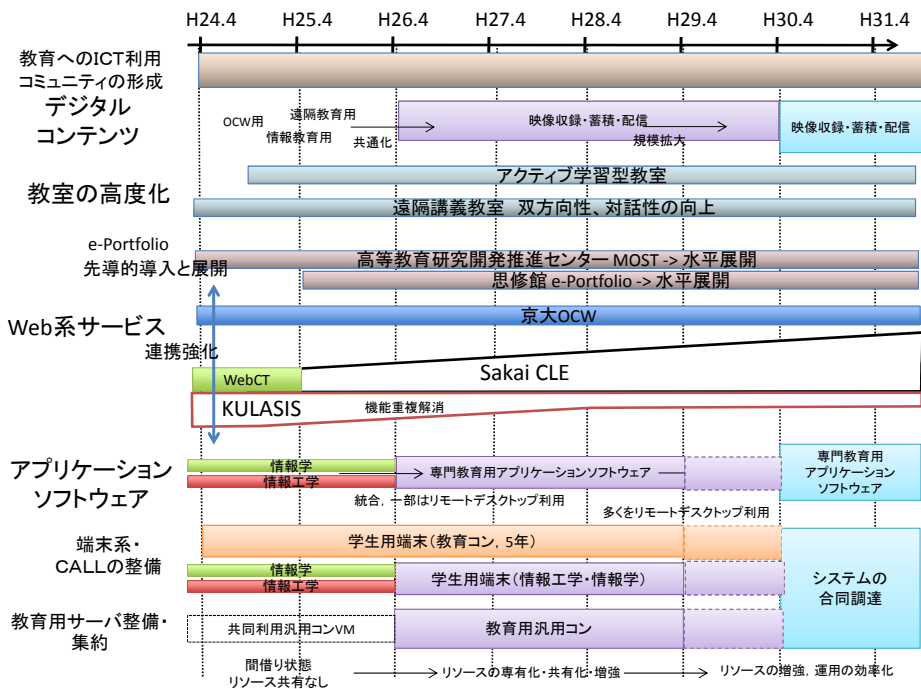
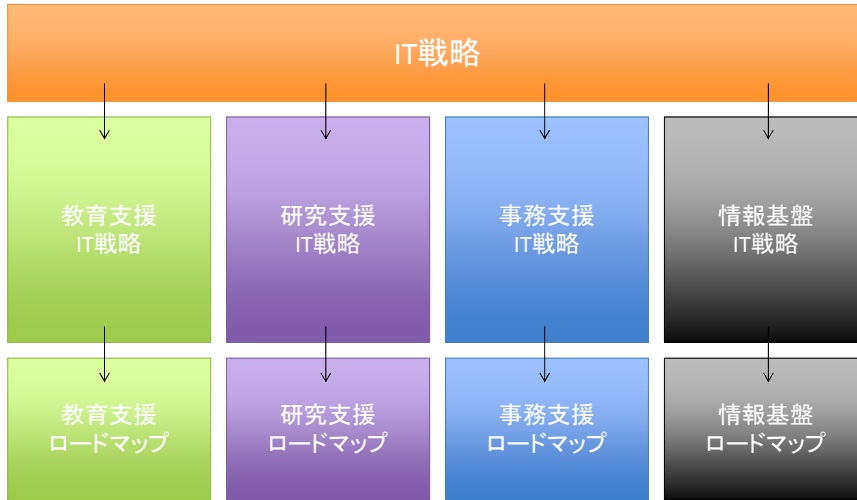
※3 授業サポート機能(授業資料, レポート, 授業連絡メール)に関して KULASIS と一部機能重複

※4 ベンダー製品 (WebCT Campus Edition 8) からオープンソースソフトウェア (Sakai Collaboration Learning Environment 2.9) へ移行 (本年度4月)

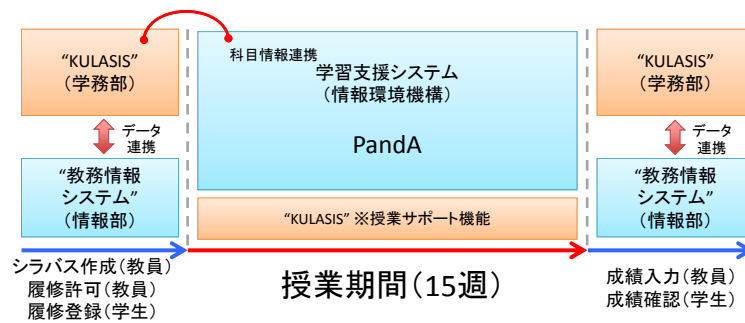
「教育の情報化」関係組織



IT戦略からロードマップへ



KULASIS-PandA の役割分担



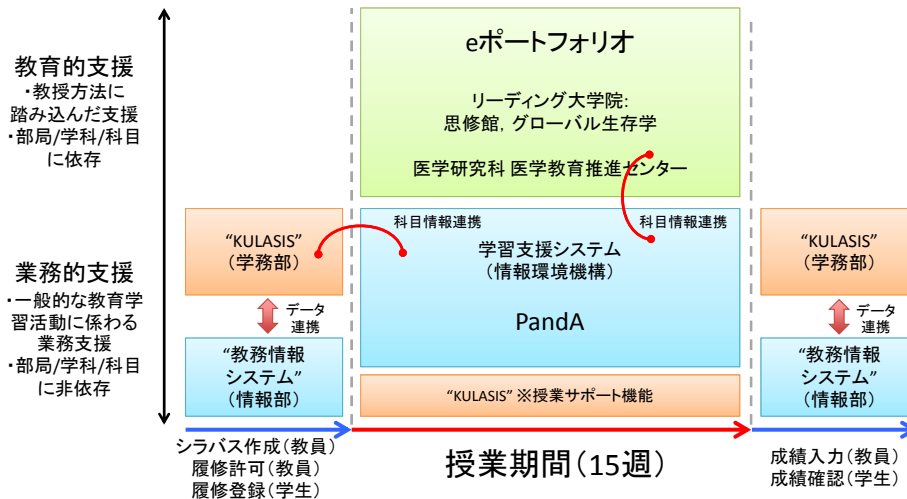
重複解消対象機能

The screenshot shows the KULASIS web interface. The main content area displays the 'Teaching Support' section for a specific course. The course name is 'クラウドプログラミング入門' (Introduction to Cloud Programming). The instructor is '梶田 将司' (Kajita Masahiko). The course is held on '火5' (Tuesday 5th) during the '後期' (Second Semester) for 'B群' (Group B). The interface includes buttons for '詳細' (Details), '休講' (No Class), and '履修者名簿' (Enrollment List). Below the course information, there are links for '授業資料' (Lecture Materials), 'レポート' (Reports), and '授業連絡メール' (Lecture Contact Email).

科目名	担当教員	曜時限	開講期	群
クラウドプログラミング入門	梶田 将司	火5	後期	B群

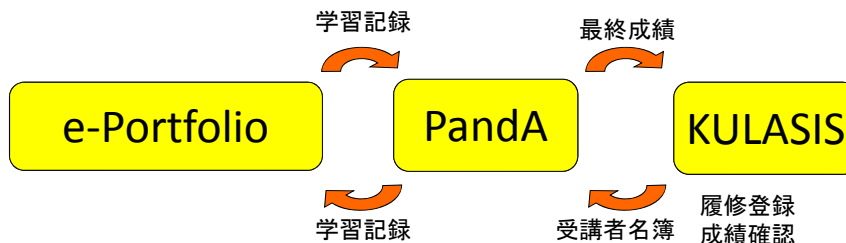
これまでの10年はこれまでの 教育スタイルのデジタル化に過ぎない

京都大学の現状



大学における eポーフォリオ(狭義)

課題レポート, 試験答案, ノートなど, 学習過程で
学生が生成した「学習に関する記録・成果物」

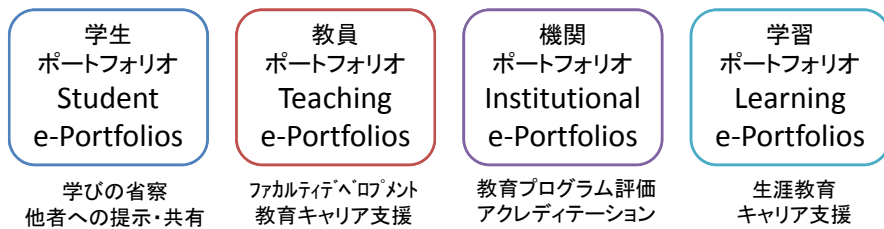


大学における入学から卒業までの
学習記録・成果の保存・利用・評価

大学における eポートフォリオ (広義)

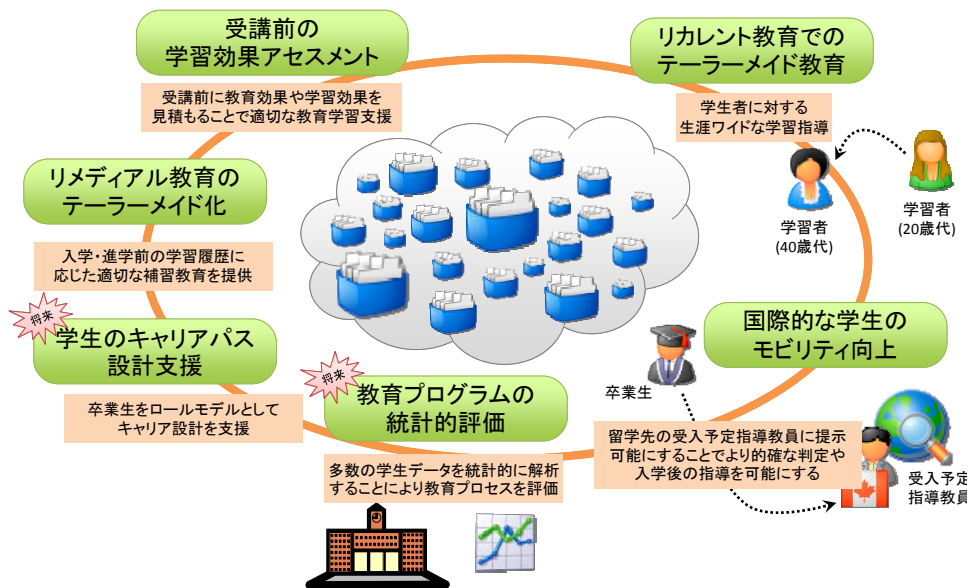
Six Major Functions of e-Portfolio

1. Plan educational programs
2. Document knowledge, skills, abilities, and learning
3. Track development within a program
4. Find a job
5. Evaluate a course
6. Monitor and evaluate performance

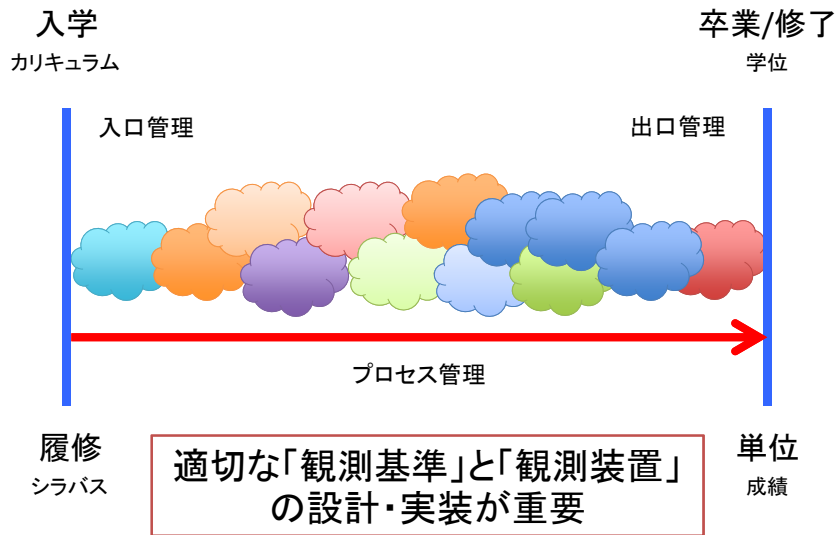


From "An Overview of E-Portfolios" <http://net.educause.edu/ir/library/pdf/ELI3001.pdf>

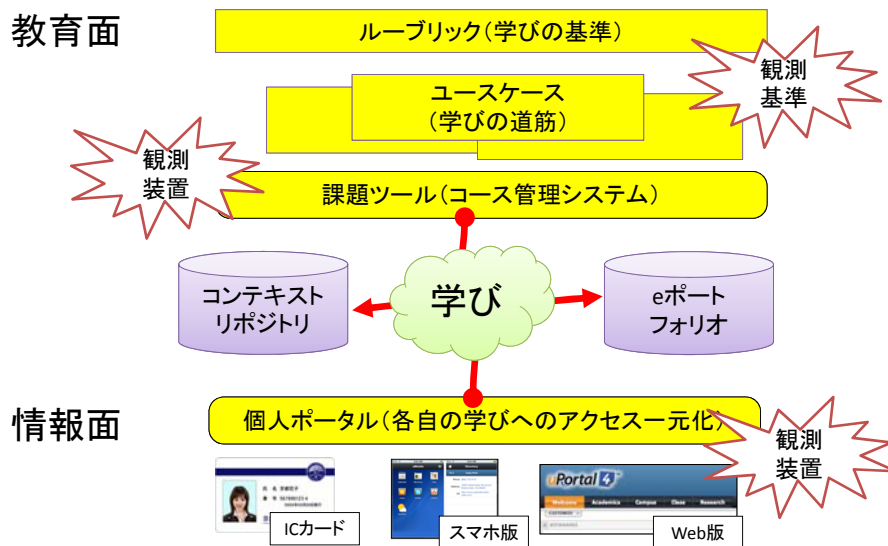
期待できる効果



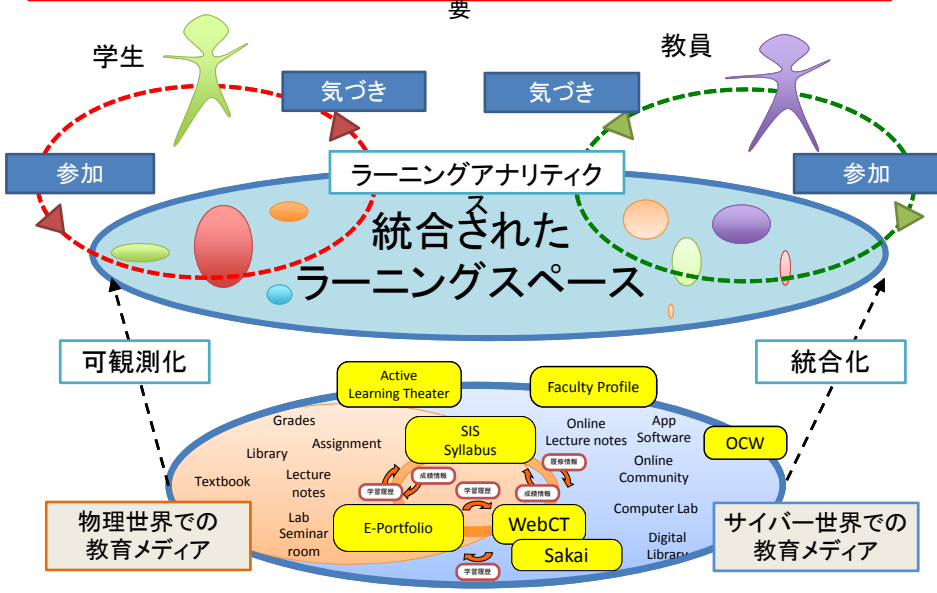
学びの可観測化



可観測化戦略



参加型サイバーフィジカルラーニングスペース
 「学びの空間」が物理世界から仮想世界へと拡大する中で、「学び」を可観測にし、統合化し、学ぶ人が相互に気づきを与えることができる新たな情報環境の構築が重要



2. Panda 基礎編

PandA Gateway - Welcome

https://clspilot.iimc.kyoto-u.ac.jp/

PandA Gateway - Welcome ログイン | ログアウト

PandA Kyoto University CyberLearningSpace for People and Academic

ようこそ ? **ウェブコンテンツ** ?

最新のメッセージ

毎週月曜日(システム保守)
 (02:00 - 02:30)
 【解決済】 PandAにアクセスできなくなりました
 (02/09/2018 11:22:30)
 【解決済】 PandAとKULASISの連携で一部不具合が発生してあります
 (02/08/2018 11:22:30)

サービス情報更新 ?

Sakoe Pilot について
 このサイトは京都大学の教育・学習が主体で利用されるオンラインツール。スクリプト
 によって自動的に生成されたコンテンツ。
<https://panda.kyoto-u.ac.jp/> から <https://clspilot.iimc.kyoto-u.ac.jp/> ヘリダ
 イレクトされたよりアクセスの際は、正確な名称とご留意ください。

京都大学
 KYOTO UNIVERSITY

京都大学情報メディアセンター
 Institute Center for Computing and Media Studies
 Kyoto University

京都大学情報管理機構
 Institute for Information Management and Communication
 Kyoto University

<https://clspilot.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

PandA を利用してみる

健康増進・行動学分野

古川 壽亮

1. 経緯

一般には Sakai という愛称で知られる Learning Management System が 2013 年度から京大で採用されることは 2012 年度の実験的フェーズで側聞をしたので、少人数で演習を含む系統的レビューの講義で利用することを早速に考えた。そして 6 月に梶田教授にご無理をお願いして（というのはまだ大学院の講義と PandA の連携が十分に出来ていなかった）わざわざ手作業で系統的レビューのためのページをご用意いただき、7 月から始まった講義で利用することとした。

系統的レビューの講義では、決まったテキストブックがあって、①学生がそれを章ごとにまとめをつかって発表して相互に教え合う（そして質問に教員が答える）、②その章に該当する自分のプロトコルの部分を学生が準備して、翌週発表する（そしてその場で教員がコメントする）、③学生は授業後にプロトコルの該当部分を完成し教員に送り教員の OK が出るまで修正をする、というステップを反復しながら、系統的レビューのプロトコルを英文で完成させるという内容になっている。これまでの経験から、

- ① 学生が作った各章のサマリーを電子的に共有できると良い
 - ② プロトコルは共通部分もあり、逆に言うと学生は皆同じところで間違っているので、人のプロトコルを参照できると学習が促進されるだろう
 - ③ 同様に、同じ疑問を持つので、それをフォーラムで学生の間で（そしてときに教員も参加して）discussion できるとクラスとクラスのあいまにも学習が進むだろう
- ということを考えて。

2. 感想

利用し初めての最初の感想は、やはりあまり簡単ではない、思った通りには動いてくれないということであった。

①は「リソース」のなかで比較的容易に実現をできた。

②を「リソース」で実現しようとする、(1)学生とのやりとりのすべてをアップしていると回によっては 10 ファイル以上（×人数分）がフォルダーにアップされることになり、たいへん乱雑になった。(2)またファイルをアップしたかどうかは学生がメールで通知することをしてくれない限り、教員の方でそのフォルダーまで見に行かなくてはならないので、無駄足になったりあるいは逆に遅れてしまったりした。そこで、途中から、学生と教員のやりとりのうち最初のファイルと最後のファイルのみをフォルダーにアップして、学生の間で共有をしてもらう形に変更し、いちぶ解決を見た。

③こちらは教員の予想以上（とは言え期待以下）の利用が見られた。今振り返ってみると、学生は

- Edited ファイルをダウンロードした後
- Duplicates の除き方
- EndNote のお得な買い方
- CENTRAL 検索結果のエクスポートについて
- 質問：WHO のレジストリプラットフォームのエクスポートについて
- 重み付け κ 係数の計算方法
- 11/11 の授業での各自発表内容
- 12 月 2 日忘れ物
- Best-best, best-worst, worst-best, worst-worst の表現について

のようなスレッドを立て、自分たちで相互学習が出来た。

3. 今後

来年度も同授業には PandA を使用するだろうと思う。いずれは、flipped class ができるくらいに持って行きたい。

おわりに

去年度の FD では、京都大学高等教育研究開発推進センターの飯吉透教授に、オープンエデュケーションについてご講演をいただきました。

今年度は大学外というよりも、大学内でいかに ITC を利用して新しい教育が可能になるかを、学術情報メディアセンター教育学習支援環境部門の梶田将司教授にご講演をいただきました。京都大学ではそれまでのシステムが変わって、Sakai と世界的には知られていて、京大内では PandA と呼ばれている learning management system を中心にお話をいただきました。また PandA の実践事例として、私が一部の授業で PandA を利用している例をご紹介させていただきました。

参加者は 26 名、それぞれに、へへへ、そんなことが出来るのか、という驚きと、そうは言ってもまだまだ不便なところもあることも指摘されました。とは言え、ITC の利用は必然的に広がって行くと思います。学習者にとってより有効な学習方法が実践されることを祈念しています。

2014 年 1 月
社会健康医学系専攻
教務委員会委員長
古川壽亮

2013 年度教務委員会（五十音順）

大坪徹也（医療経済学）
小川雄右（健康増進・行動学分野）
河野雅之（薬剤疫学）
寒水孝司（医療統計学）
高橋由光（健康情報学）
古川壽亮（委員長、健康増進・行動学）
山崎 新（医療疫学）
和田敬仁（医療倫理学）